

ごえん、むすぶ、おうご

淡河帖





自身のふるさとに事務所を構え、

まだたったの4年ほっち。

定点観測、というには少し足りない年月だが、

これからも観測を続けるという意志をこめて

ここで営まれる日常を一冊にまとめた。

日々、さまざまな関係性の中を生きる方々の中に生まれ、

目の前のなにかを、目の前のだれかを、大切に思うことを教わった。

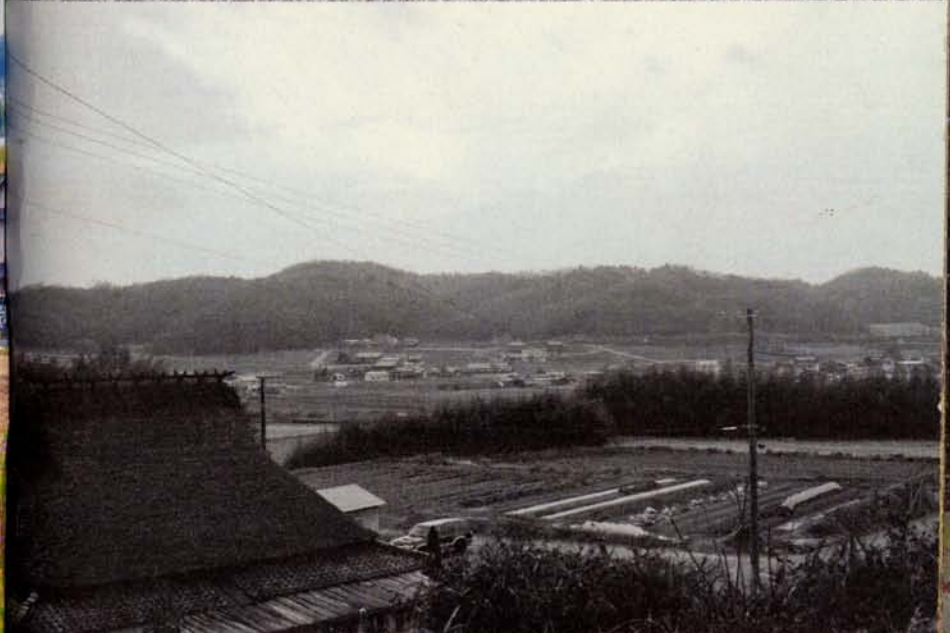
日々のモノガタリを重ねながら、また誰かにそれを伝えていくこと。

明日もあなたが笑顔でありますように。

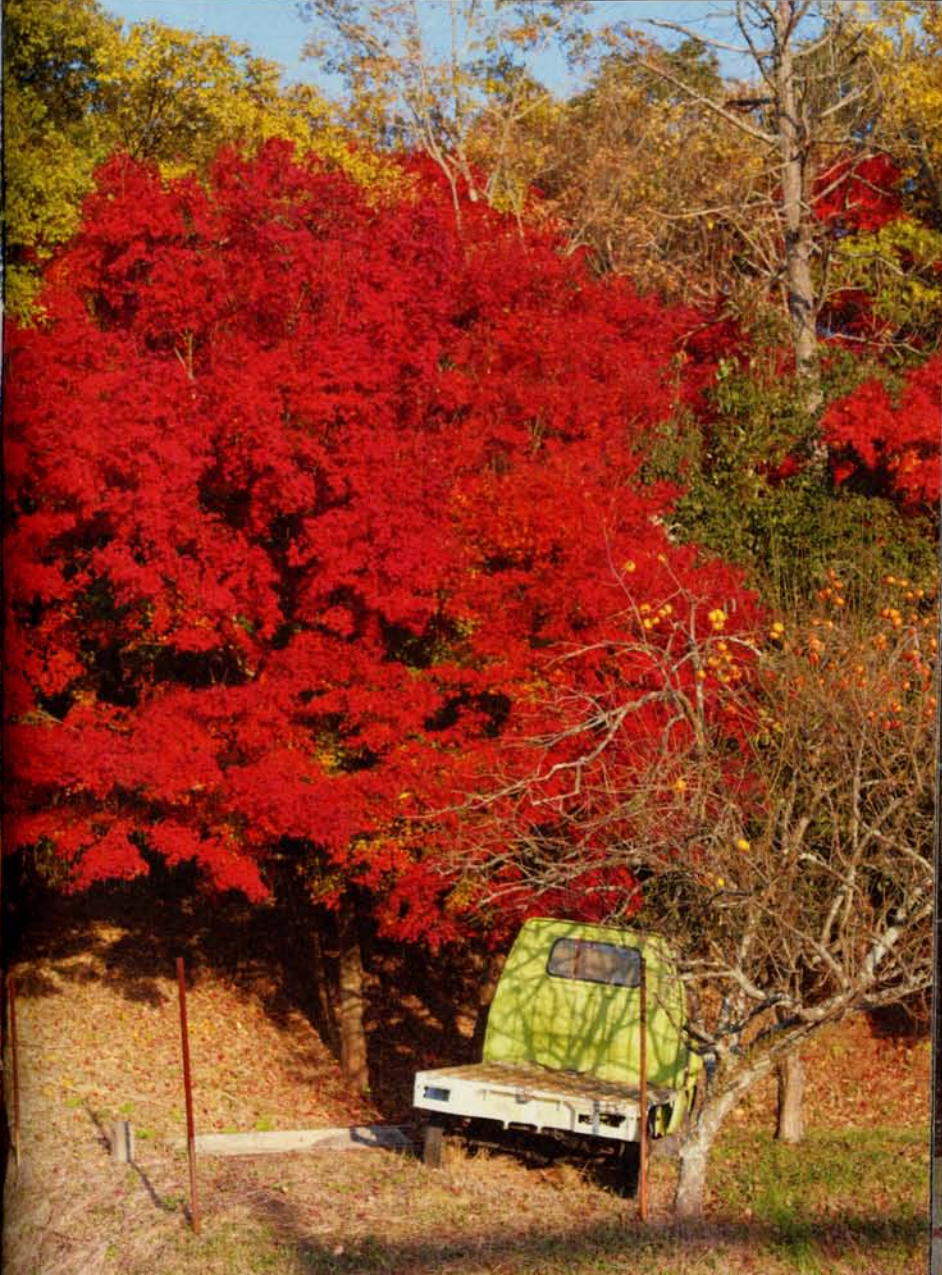
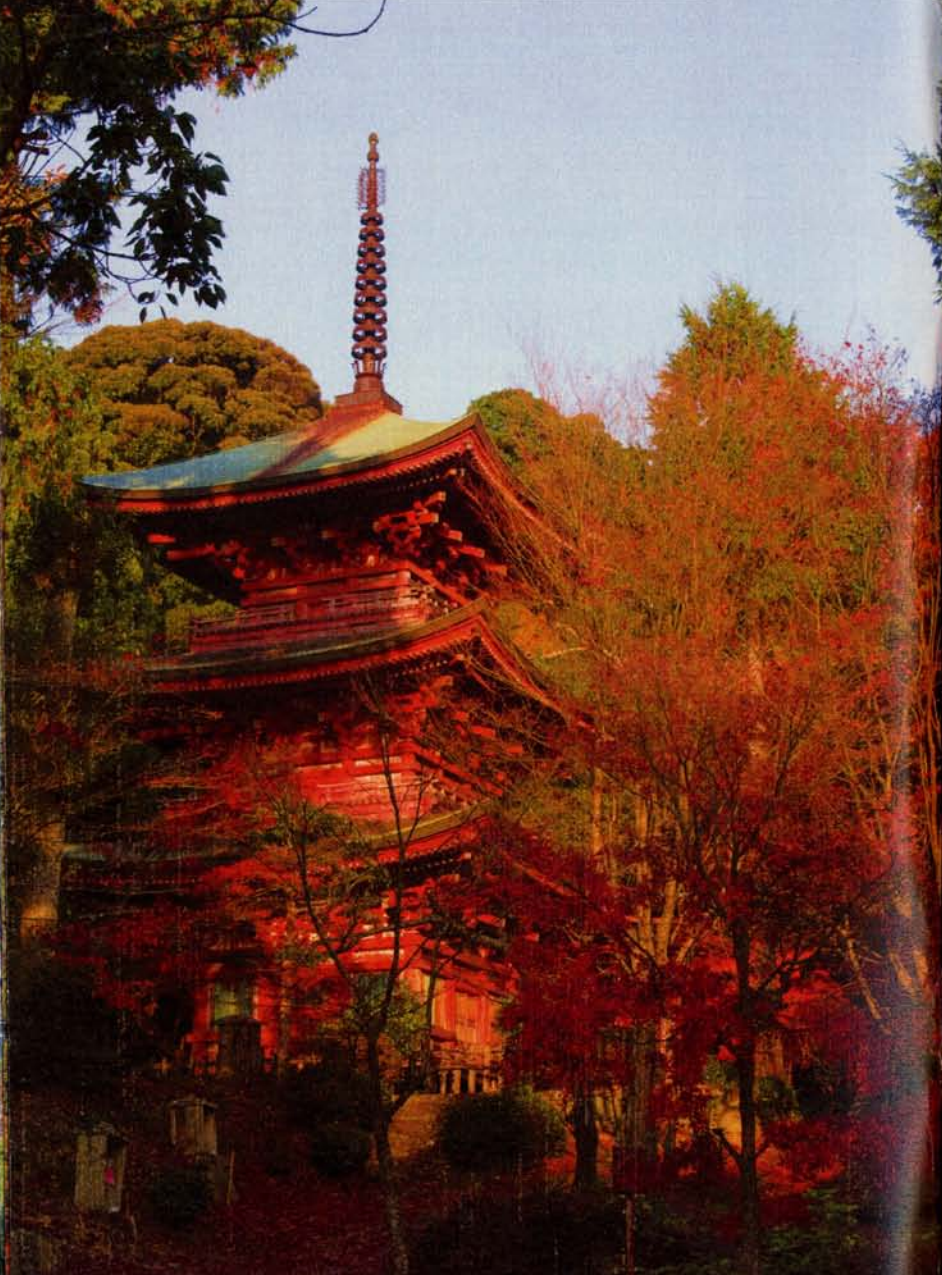
Scenery

、兵部を酒蔵事にとするものあり
 ば。至四年のたふさぎま
 はけ月半ノ方りてよりやうにてなり。断斷あま
 てぬき意をとりたるが將を断歸とよめたり
 ぐらゝまで一々當日るは其意にこ

Scenery











皆、紡ぐ業に秀でている。

基本姿勢から、

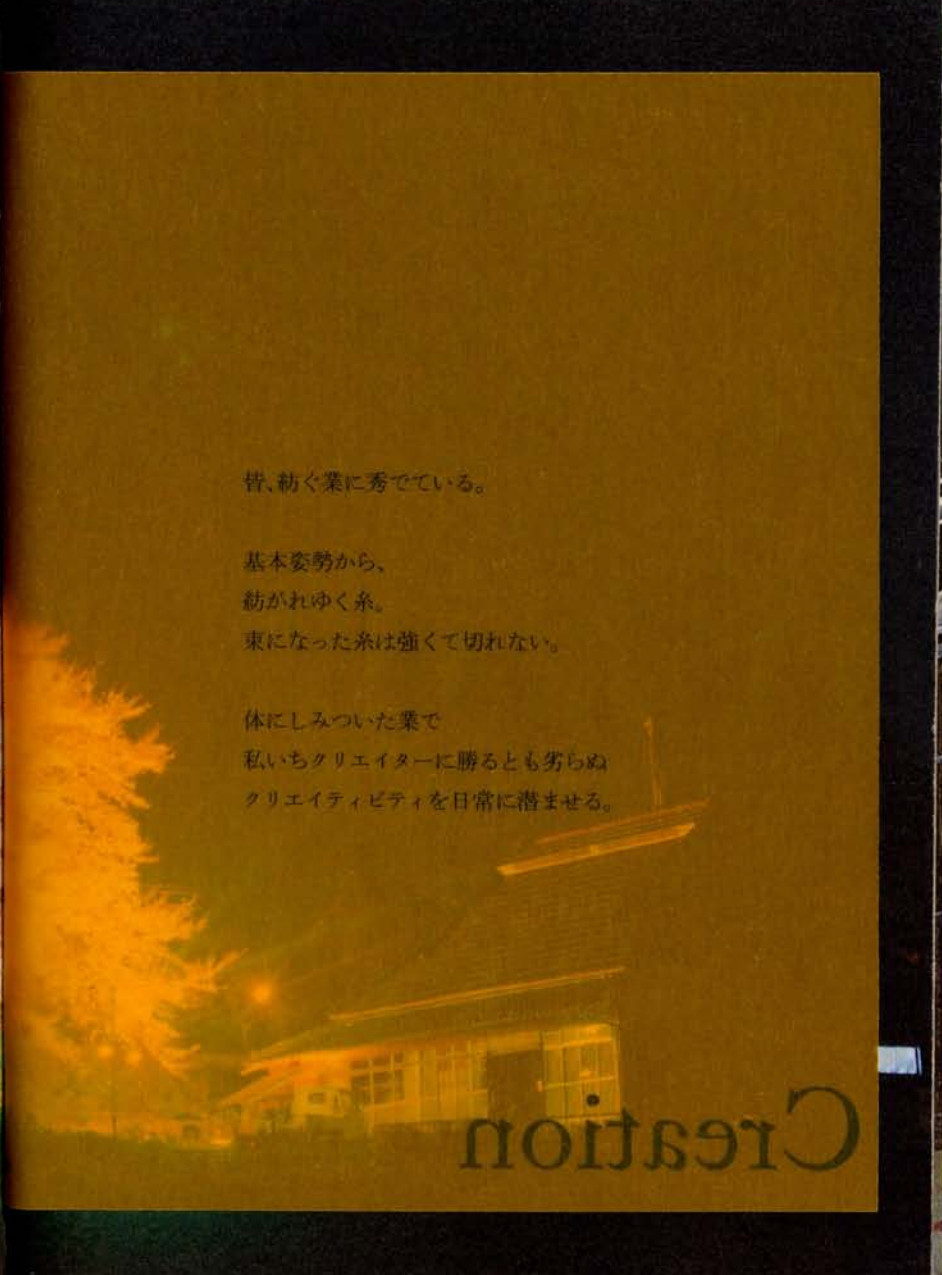
紡がれゆく糸。

束になった糸は強くて切れない。

体にしみついた業で

私いちクリエイターに勝るとも劣らぬ

クリエイティビティを日常に潜ませる。



Creation

る。いかに表の裏の裏、

る。いかに表の裏、

る。いかに表の裏、

る。いかに表の裏、

る。いかに表の裏、

る。いかに表の裏、

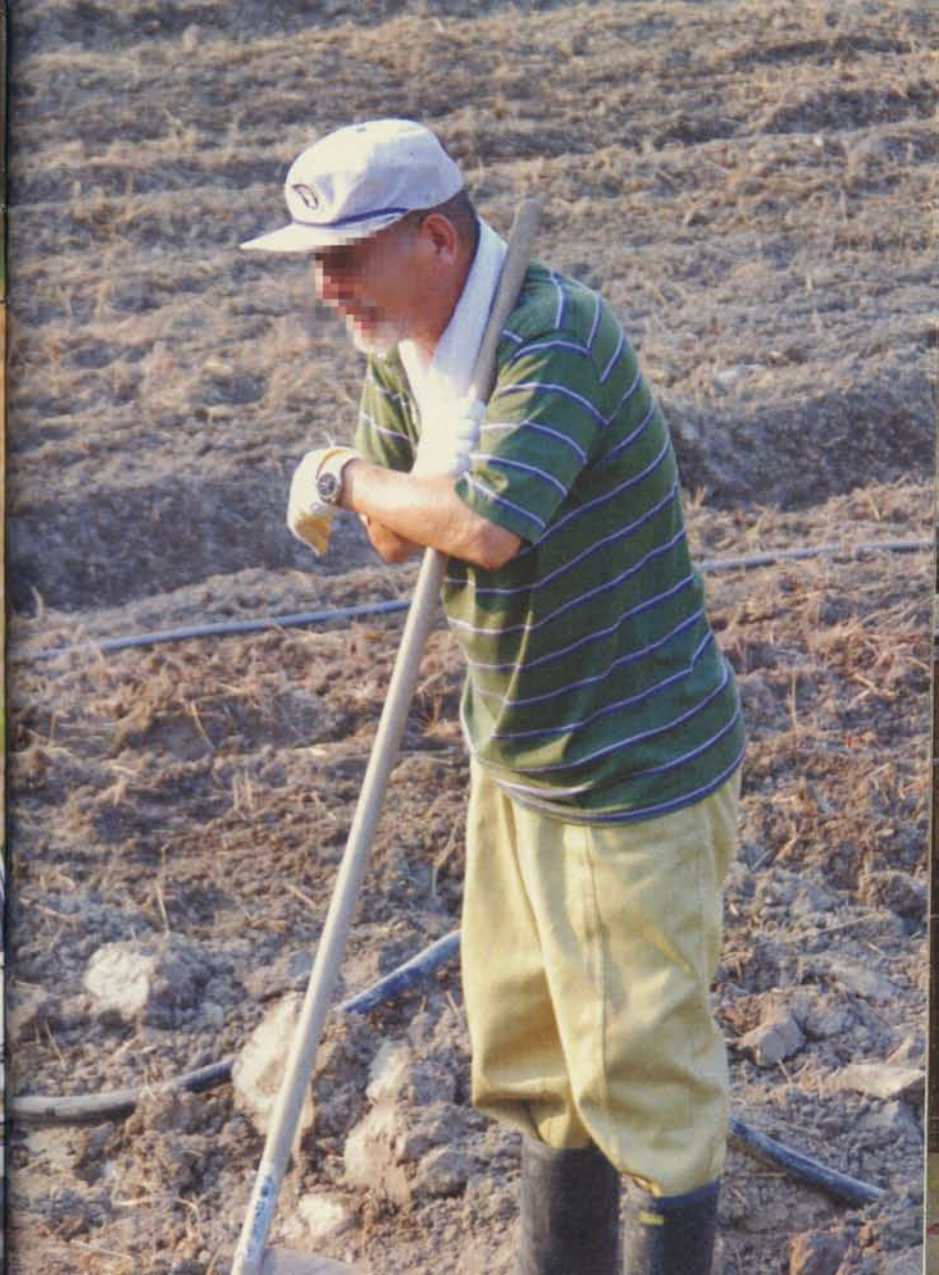
る。いかに表の裏、

Creation







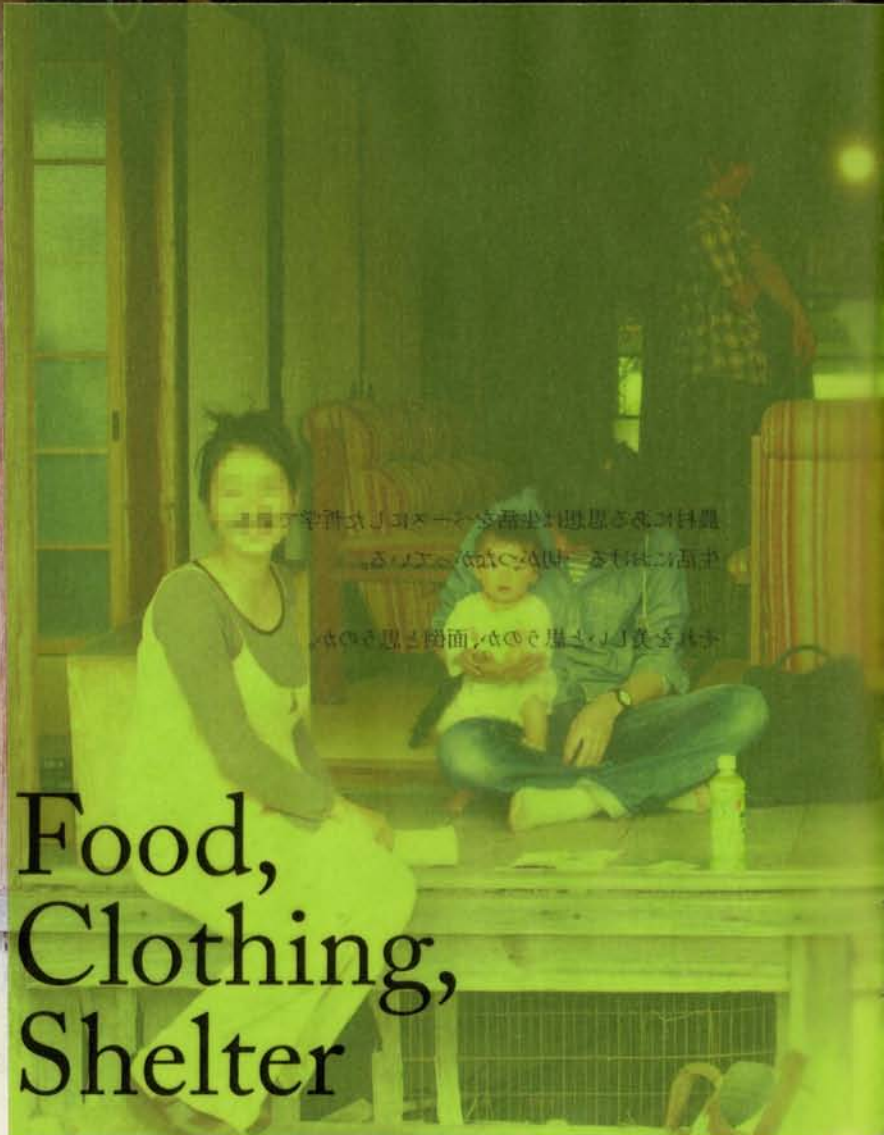




農村にある思想は生活をベースにした哲学である。
生活における一切がつながっている。

それを美しいと思うのか、面倒と思うのか。

Food,
Clothing,
Shelter

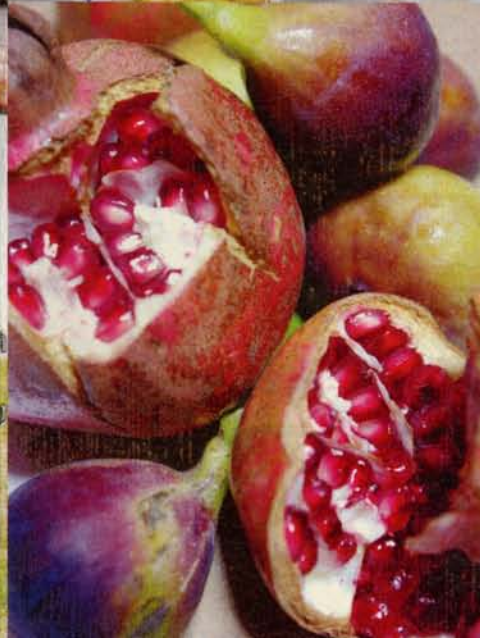


Food, Clothing, Shelter















陰翳を消すのではなく、陰翳を愛でることで日本古来の感覚が磨かれてきた。
自然に親しみ、その場所特有の湿気の多さや季節の移り変わりを認め、
巧みに生活と自身の感覚の中に取り込んだ。

目を瞑れば闇の中からふつふつと湧き出てくる故郷の心を宿らせた風景。
陰翳を礼讃しているだけでなく、陰翳を日々に宿そうと思った。

Grasse









右を見れば左は見えないし、左を見れば右は見えない。
ぐるっと見回してこそ見える景色もある。
景色がどんどん流れていくものだから
ぐるぐるぐると見回す人が多い中で、
一点を見つめるひとたちがいる。

008

一点を見つめる強さや美しさに日々触れていよう。

Viewpoint

つたも見出しは見えなく、つたも見出しは見えなく
つたも見出しは見えなく、つたも見出しは見えなく
つたも見出しは見えなく、つたも見出しは見えなく
つたも見出しは見えなく、つたも見出しは見えなく
つたも見出しは見えなく、つたも見出しは見えなく
つたも見出しは見えなく、つたも見出しは見えなく
つたも見出しは見えなく、つたも見出しは見えなく

Viewpoint











こうやって写真群を見通してみると、
たぐさんの関係性に囲まれていることが良くわかる。
軸を据えていれば、点が線に、面に、立体になる。
これからもルーツを旅したい。

当たり前に必要な場所を、つまり
大切なひとを、大切にできますよう。

淡河帖

2011年 10月 20日 東京

写真：小島寛子 / デザイン：安福友祐

Cott (コット)

〒651-1614 神戸市北区淡河町木津149-2

Tel/Fax 078-220-7211

E-mail info@cott.jp

<http://www.cott.jp/>

©2012 cott

Hope

Hope

。さるふて「眞景」を眞實な文字で
。さるふて「眞景」を眞實な文字で
。さるふて「眞景」を眞實な文字で
。さるふて「眞景」を眞實な文字で

。さるふて「眞景」を眞實な文字で
。さるふて「眞景」を眞實な文字で

淡河帖

ごめん、わすね、おうご

編集/アートディレクション/デザイン

安福友祐

cott (コット)

〒651-1614 神戸市北区淡河町木津149-2

Tel/Fax 078-220-7211

E-mail info@cott.jp

<http://www.cott.jp/>

©2012 cott



Data

神戸市北区おうご淡河町

人口:約3000人

面積:37.97km²

※112m四方にひとりが住んでいることになる。